漆喰（しっくい）とは消石灰を主原料とした壁材です。
消石灰が空気中の二酸化炭素と反応して硬化し、時間の経過と共に硬い石灰石に戻る性質を利用して、古くは高松塚古墳、城郭、神社仏閣、蔵などに幅広く使われてきました。





戦後、クロスの普及と共に需要が減っていきましたが、近年漆喰は調湿、抗菌、消臭といった機能を持つ優れた建材として見直されてきています。

従来の漆喰壁は、左官職人が現場で材料を調合し、コテで仕上げていました。
ローラーで塗る漆喰「しっくのん」は出荷の段階で全ての材料を調合しているため、蓋を開けて攪拌後すぐに使用することができます。

しっくのんの主原料である消石灰は山口県産の石灰石を使用しています。



秋吉台